第 174 号

館長だより

山形県産業科学館

令和７年２月１６日(日)

発行 館長　加 藤 智 一

旧朝香宮邸（東京都庭園美術館）にて

この度、東京に行く機会を得て、かねてから一度訪れてみたいと思っていました、白金台にある旧朝香宮邸。現在、「そこに光が降りてくる」青木野枝・三嶋りつ惠作品展が開催されていると聞き、行ってまいりました。現代美術の第一線でご活躍されている両氏の作品が、旧朝香宮邸のアール・デコの装飾空間と見事に調和し、圧巻の数々。青木氏は、鉄を用いて空間に線を描くような彫刻で表現の地平を切り拓き、三嶋氏は無色透明のガラス作品を通して場のエネルギーを掬い取り光に変換します（パンフにそうあった)。「鉄」と「ガラス」という極めて無機質な素材が、旧朝香宮邸を彩るシャンデリアやレリーフ、大理石装飾と重なって、あたかも昔からそこに在ったかのような存在感。圧巻でございました。

それはそれとして、実は私、偉大なる両氏には大変申し訳ないのですが、作品よりも旧朝香宮邸の室内装飾に目を奪われてしまいまして、多くの来館者がカメラを向ける方向とは真逆、壁面デザインや照明器具、扉の装飾、ラジエーターのグリル、階段の手摺まわりなど、至るところに存在するアール・デコのデザインに見とれてしまいました。

1933（昭和 8）年に皇族朝香宮家の自邸として建てられたこの建物は、主要な部屋の内装にアンリ・ラパンやルネ・ラリックなど、フランスのアール・デコ様式における著名なデザイナーが腕をふるいました。使われている建材も全てが本物で（当たり前か？）部屋ごとに異なる「大理石」の種類だけでも一体どれだけあるのやら。白系あり茶系あり黒系ありと、さぞかしお金かかったのだろうなと、下衆な想像を膨らましてしまいました。

「大理石」とは、石灰岩が変成作用を受けてできた粗粒の方解石、ドロマイトなどの岩石のことです。岩石学的には「結晶質石灰岩」と呼び、変成岩の一種と位置付けていますが、石材としては、変成作用を受けていない石灰岩や、蛇紋岩などもそう呼ばれる場合があるので、色の違いも合わせたら膨大な種類が存在します。

そう言えば、私の母校「山形市立第七小学校」の旧校舎（今は解体されて存在しません）は、階段の手摺など「大理石」？が使われていました。そうです、正確には「人造大理石」。因みに「人工大理石」と「人造大理石」は違いますからね。「人工大理石」は、アクリルやポリエステルなどの樹脂を主成分としているのに対して、「人造大理石」は、天然鉱石をセメントなどで固めたもので、見た目は似ていますが、実際には異なる素材です。山形市立第七小学校旧校舎も、朝香宮邸が完成したのと同じ 1933 年（昭和８年)に建てられました。今思えば、中央階段やスロープ階段、丸窓、天井照明など、アール・デコとおぼしき装飾が至るところにありました。当時流行りの先進的デザインだったのでしょうか？懐かしい思い出です。その価値も分からずに、おんぼろ扱いしてすいません。